

SSH通信

これからの行事

GSフェスタ

1/4(月)~25(月)
みやぎのこども未来博 有志生徒
(オンライン)
1/23(土)
プラズマ・核融合学会 有志生徒
(オンライン)
1/29(金)~30(土)
東北サイエンスコミュ 有志生徒
ニティ
1/30(土)
海洋教育フォーラム(オ 有志生徒
ンライン)

2020.11.7 (土) 学校行事・全学年生徒

● 英語セッションを振り返って

今年の英語セッションと日本語セッションでの違う点は2つありました。1つ目は母国語ではない言語で自分の研究の発表をするという点です。発表をしている最中に聴き手の反応が無い為に、自分が話している事がちゃんと相手に通じているのか不安になってしまったり、自分の語彙力の不足で相手からの質問の意味が分からなかったりと頬に冷や汗が流れる時が度々ありました。2つ目は対面での発表ではなく、Zoomを通してのオンライン発表だということです。接続が悪く、相手の言っている事が分からないといった問題が多発した為、チャットで質問を受け付けたりして問題を切り抜けました。今回のGSフェスタの英語セッションでは、英語力は勿論、トラブルを切り抜ける能力も向上させる事ができて良かったです。

(2年理数科 平野初音)

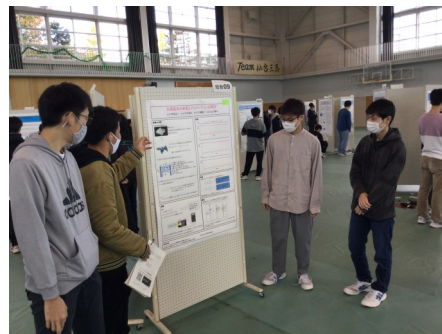


● 2年生としてGSフェスタに参加して

今回のGSフェスタは、コロナ禍での開催ということで、WEBでの発表の場が設けられました。外部の方は一部の人のみの参加となりました。

しかし、私にとっては初めての発表の場でありました。発表後の質疑応答では自分たちの中でも理解できなかった点があり、さらに調べる必要がある所が見つかりました。WEB上でのコメントでも多くの意見を頂き、ポスターにおける改善すべき点が明らかになりました。今後の探究活動に活かしていきたいと思っています。また、発表においては進行役を務めさせていただき、わずかながらも役に立てたこともうれしく思いました。

(2年普通科 能登屋 陵)



● GSフェスタを通して

私は今回のGSフェスタにおいて、探究ではポスターで、部活ではポスターとスライドの両方で発表しました。ポスター発表では大まかには内容を伝えられましたが、言葉が詰まってしまう部分があり、自分の未熟さを感じました。スライド発表では聴衆者からの質問にうまく答えられていなかったため、的確に答えられるように改善していきたいと思いました。

これらの発表において、自分たちでは考えつかないような新しい視点からの意見を頂いたため、この意見を生かして研究をより良いものにしていきたいと思っています。

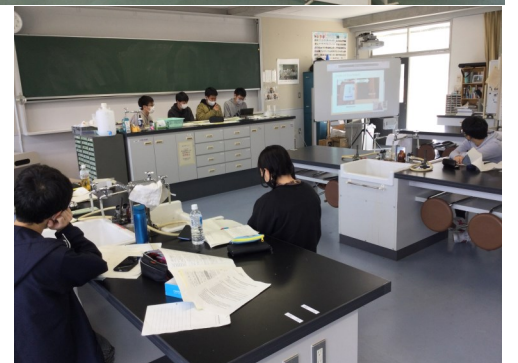
(2年普通科 川勝祐貴)



● 日本語ポスターセッション

開会式が終わると理数科2年によるポスターセッションが行われました。三高生以外の方に発表するのは初めてというグループが多く、緊張した姿も見られましたが、みんな積極的に意見交換をしていました。特に外部の方からの意見や質問は新たな視点からのものが多く、充実したものになりました。今回のポスターセッションでたくさんの方のことを学んだので、これを次の機会にしっかりと活かしたいです。

(2年理数科 門脇はな)



Information

SSH課外活動は、理数科・普通科の別や学年を問わず本校生徒なら誰でも参加できるものがほとんどです。ぜひ、積極的に参加してください。

宮城県仙台第三高等学校

仙台市宮城野区鶴ヶ谷1-19

TEL 022(251)1246

FAX 022(251)1247

E-mail sensan@od.myswan.ed.jp

GSフェスタ

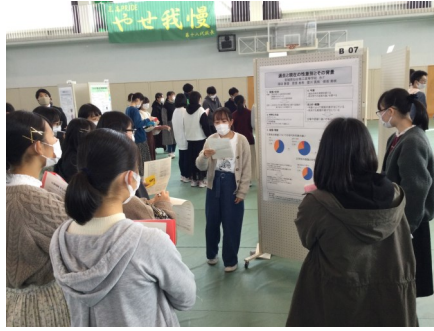
2020.11.7 (土) 学校行事・全学年生徒

● 想像から実像へ

一年生から取り組んできた探究の成果を発表する先輩方は、自信に満ちていて研究者然としていた。その研究内容は、緻密でありながら様々な工夫が施されていてわかりやすく、とても参考になった。

フェアトレードの商品を買い取り実際に学校で販売する、保護者や企業の方にアンケートを依頼するなど、データの取り方が広範囲にわたっていたのが印象的だ。今、ネットからデータを持つてくることは簡単だが、こうして学校内外の方々の協力を得てリアルなデータを得れば、より説得力を持つと実感した。

今回、GSフェスタに参加して、これから取り組む研究が、単なる「イメージ」からより具体的になった。さらに積極的に授業に参加しようと思う。
(1年普通科 三浦 和佳)



● 協力

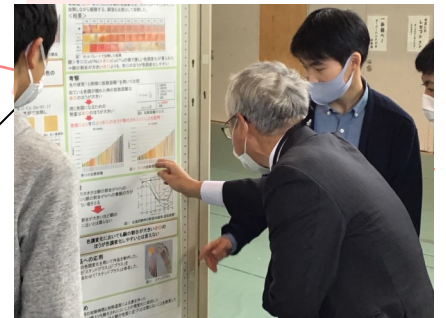
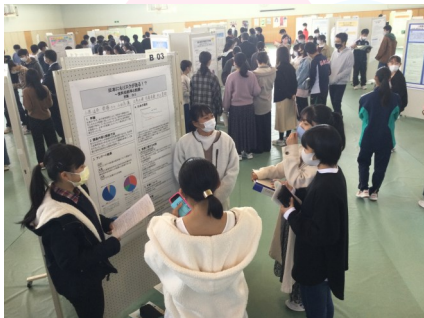
今回のGSフェスタは、改めて三高に入学したことを実感させられるものとなった。

私たち理数科は、ポスター発表、英語のセッション、他校生の発表と、発表を聞く機会が多く設けられた。それぞれの発表の内容は、自分1人だけでは気づかないようなことに目を向けられていて、聞いていて感心することが多かった。

私は発表を聞いていて、実験や調査は1人ではできないのだと感じた。必ず一緒にやってくれる人がいて、協力してくれる人がいる。そう感じた。

来年は、1人ではなくメンバーと協力して、自分の好きなことや興味のあることを多くの人に伝えていきたい。そして、協力してくれた人には感謝を忘れないようにしたい。

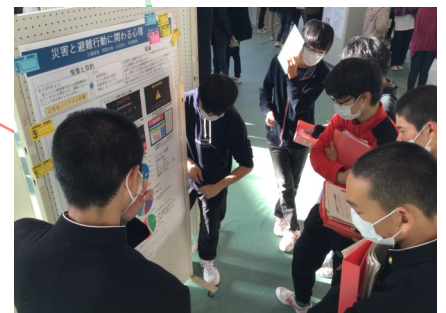
(1年理数科 平海 那由多)



● 外部参加校セッション

今年は例年とは違いオンラインでの発表会だったため、通信不良によりスライドが見にくかったり声聞き取りにくかったりといった不便があった。しかし発表内容はどのグループも着眼点がユニークで面白かった。三高を最良とするわけではないのだが、自然科学部化学班の発表においての「黄銅の色調変化に関する性質は、黄銅の中の銅の含有量が多ければ多いほど銅に近くなる訳ではない」という研究に特に興味を持った。また、各発表後に専門家の方のアドバイスが多く寄せられていたが、それらのアドバイスは私たちがいずれ発表する際に役立つものばかりでとても参考になった。

(2年理数科 芦原 汰一)



● GSフェスタを終えて

11月7日、本校にてGSフェスタが開催されました。今年は規模を縮小しての開催でしたが、自分の探求の進め方を想像することができたと思います。私はある班の発表に関心をもちました。その班は、国連で決められたSDGsに対しての問題点を指摘し、あるべき支援の姿について述べていました。私はこれまでSDGsを達成するために何をすべきか考えるのが探究だと思っていましたが、この班の発表を聞いて新しい探究の形を知りました。テーマや視点が人それぞれで、知りたいことを調査できるのが探究の良いところだと思います。私も興味を持ったことに真っ直ぐに探究したいと思いました。

(1年普通科 石川 曹太)